

会 議 録

会議の名称	第 44 回 飯塚市都市計画審議会
開催日時	令和 6 年 8 月 2 日（金） 14：00～14：30
開催場所	飯塚市役所 本庁 4 階 入札室
出席委員	依田会長、香月委員、渡邊委員、須堯委員、土師委員、深町委員、田中委員、城丸委員、石川委員、安部委員、中西委員、佐藤委員、梶原委員、大谷委員
欠席委員	掛田委員、小野委員、矢野委員
事務局職員	<p>【都市建設部】</p> <p>大井部長、中村次長</p> <p>【都市計画課】</p> <p>城戸課長、永田課長補佐、大場都市政策係長、西田</p> <p>【下水道課】</p> <p>西岡課長</p>
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>報告第 1 号 筑豊広域都市計画下水道の変更について</p> <p>3 閉会</p>
会議資料	<p>資料 1 筑豊広域都市計画下水道の変更（飯塚市決定）～都市計画決定の説明～</p> <p>資料 2 筑豊広域都市計画下水道の変更（飯塚市決定）計画書</p> <p>資料 3 飯塚公共下水道（汚水）総括図</p>
公開・非公開 の別	<p>① 公開                    2 一部公開                    3 非公開</p> <p>(傍聴者 0 人)</p>
その他（非公 開理由等）	

# 会 議 録

会議内容	<p>1 開会</p> <p>●事務局より挨拶及び新任委員の紹介、会議の成立の報告</p> <p>2 議題</p> <p>報告第1号 筑豊広域都市計画下水道の変更について</p> <p>●事務局より資料1・2・3に沿って説明</p> <p>本件は飯塚市都市計画下水道の排水区域に、飯塚市立病院の区域を加える案を報告するものである。飯塚市立病院はその汚水の処理を合併処理浄化槽で行っており、合併浄化槽からの排水による周辺環境への懸念や汚水処理における合併浄化槽の更新・維持管理費用と公共下水道施設の設置・維持管理費用の比較などを検討した結果、当該施設の汚水処理については公共下水道で行う方針としたものである。その結果、排水区域は2,267haから、当該区域の4haを追加し、2,271haへ変更する予定としている。</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>① 費用の比較について</p> <p>委 員：事業を変更する目的としてひとつは自然環境保全ともうひとつは合併処理浄化槽の更新・維持管理費用と公共下水道施設の設置・維持管理費用の比較とあったが、これらの差はイニシャルコストを含めるとどのくらいになるのか。</p> <p>事 務 局：飯塚市立病院の合併処理浄化槽は2槽あり、それぞれ770人槽と1,380人槽であり、合計2,150人槽となっている。1,380人槽については1985年に供用開始となっており、39年が経過している。これらを更新すると、改修更新費で2億8,700万円でランニングコストは年間646万5,000円である。下水道への接続工事費用は1億2,864万円を想定しており、設計費を含めると1億6,974万円となっている。国の補助金を活用した場合を試算した結果、市の持ち出しは9,367万円となっている。年間当たりで計算すると、浄化槽についてはその耐用年数が32年であり、前述の費用を32年で割ると、年間1,546万円となる。下水道については耐用年数が50年であり、市の持ち出し分の整備費用を50年で割った場合、年間187万4,000円となる。これらを比較すると公共下水道に接続したほうが年間1,358万6,000円も安価になるため、今回公共下水道に繋ぐ方針と</p>
------	--

## 会 議 録

	<p>した。</p> <p>委 員：公共下水道に対するランニングコストはないのか。下水道使用料などはどうか。</p> <p>事 務 局：設備に関してはマンホールポンプで圧送する方式としているが、機械が新しいうちは修繕などのイニシャルコストはほとんどかからない想定である。また、下水道使用料は年間925万円ほど支払うことになると思う。</p> <p>3 閉会</p>
--	--